

# 表町の小さな試み～住民と大学、行政による協業のまちづくり～

**【応募者】** 氏名：柄尾表町区まちづくり委員会 大港捲二・新潟大学工学部教授 西村伸也・長岡市役所柄尾支所建設課長 佐野豪／  
連絡先：長岡市金町 2-1-5 長岡市役所柄尾支所建設課 諸橋修一 TEL(0258) 52 - 5825 FAX(0258) 52 - 3990 Email: tco-kensetsu@city.nagaoka.lg.jp

## 【応募理由】

柄尾表町における住民と大学、行政による協働のまちづくりは、活動開始から今年で11年目を迎える。この活動が目指し実践してきた「自律したまちづくり」は、当地区における住文化の保存への貢献だけでなく、今後の住環境整備に対する実践的提案としても独自性があり、本賞の目的に合致するものと考える。

## 【作品または活動の概要】

柄尾表町は300mほどの通りの両側に、妻入り屋根の町家と雁木が連なる町で、約80世帯が暮らしている。雁木とは雪深い冬場の歩行空間を確保するため、家々が通りに面する敷地を提供し合い、そこに屋根（長大化した庇）を掛けたものである。表町の雁木は家業や家主の個性が反映され、一つ一つ趣が異なり、それらが連なることで独特的な地域景観を創り出している。

当地区では、平成9年より住民と新潟大学工学部、柄尾市（現在は合併により長岡市柄尾地域）との協働によるまちづくり活動を行っており、平成9年には地域づくり計画案の策定、10,11年には屋号デザイン看板の製作、設置、12年からは年に1棟ずつ雁木の建築に取り組んでいる。今年も12月中には新たな雁木が地域に加わることとなっている。（2007/8 現在8棟建築）

## 【作品または活動の特色】

このまちづくりは住民と大学が計画から実践までを一貫して担うという点が最大の特徴であり、他に例を見ない活動となっている。大学の学生は7～8班に分かれ、柄尾表町を何度も訪れ、柄尾・柄尾表町・施主の歴史等の情報を聞き、雁木デザインに活かしていく。デザインされた雁木は9月末のデザインコンペにおいて柄尾表町の住民に提案され、住民の投票により建築する雁木を決定する。また、実際の雁木建築も地元大工さんの手を借りながら、自分たちの手で作りあげていく。

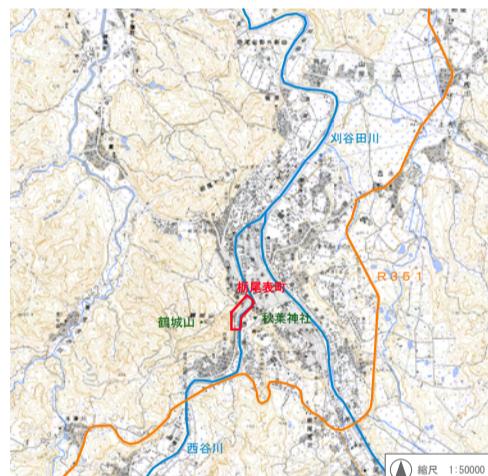
また、この活動は無理に肥大化せず、無理のない規模で自律した活動を目指し、手づくりのまちづくりを実践している。作られた看板や雁木は一つ一つ趣が異なると共に、全てが手づくりで創られている。自らの手で創り、まちを少しずつだが確実に変えていくことが、参加者に大きな達成感を与えると共に、持続した活動への動機付けとなっており、また、これは活動が無理のない規模で行われているからこそ得られるものである。

そして、まち並みを保存、活用するだけでなく、まちを作る仕組みを生み出すことによって自律し、地域住民と外部機関それが主体的に関わることで持続可能なまちづくりとなっている。

## 写真説明書

新潟県長岡市柄尾表町

## 区域図



地図：国土交通省国土地理院の地図閲覧サービスより

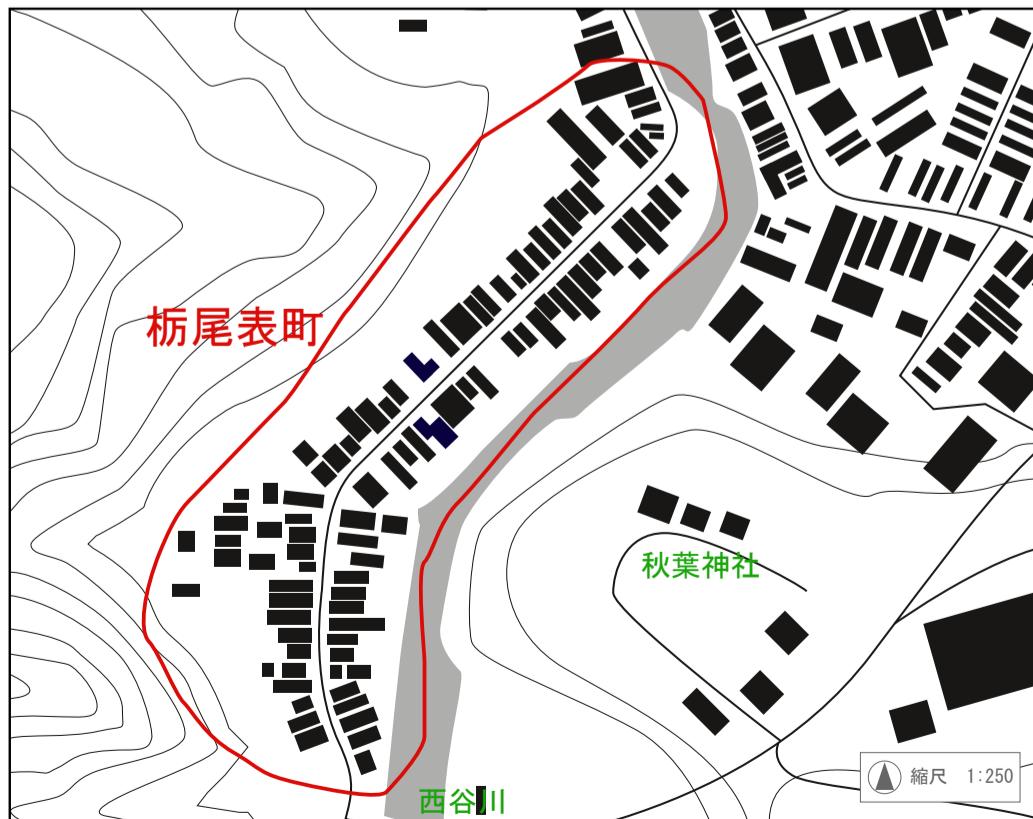


写真 No. 1  
柄尾表町は約300mにわたって切り妻屋根と、冬場の歩行空間を確保するための「雁木」が連なった、独特の街並みをつくりだしている。



写真 No. 4  
班ごとに考えられた雁木を一堂に会し、デザインコンペティションを行う。プレゼンテーションとディスカッション後に住民による投票が行われ—等案が決められる。



写真 No. 2  
2000年より、柄尾表町では住民と新潟大学の学生、柄尾支所の協働により「雁木」を毎年一棟ずつ作るまちづくりを行っている。



写真 No. 5  
活動によって作られた雁木は、まちの景観に新たな表情を加えると共に、小学校の総合学習で取りあげられたり、周辺地域での雁木に対する認識に変化を与えている。



写真 No. 3  
住民と学生が一緒に雁木のデザインを検討する。その過程で学生は表町の特徴を知るために、地区に残る町屋の見学や雪のある生活について話を聞く。



写真 No. 6  
まちなみを保存するのではなく、まちを作る仕組みを生み出しことによって、持続可能で自律したまちづくり活動となっている。